

Office of

Institutional

Research

KUIS

IR推進室 年次報告書2017

2017 Annual Report of the Office of Institutional Research

CONTENTS

1. IR推進室のご紹介
2. 年次報告書について
3. Institutional Researchとは
4. 最近の大学IR事情
5. IR推進室主な活動記録(2017年度)
6. 今後の活動計画
7. 大学IRコンソーシアムについて
8. 共通学生アンケートの集計結果
(抜粋)

IR推進室のご紹介

室長 玉造 美恵

神田外語大学のIR(Institutional Research)推進室は2016年4月に発足しました。IR推進室は、大学の戦略的な経営や教育改善のために、学内にある多様なデータを収集し、分析等をおこなうことを目的として活動しています。推進室のメンバーは5名。教員1名、職員4名で構成された事務局組織であり、全員が兼任のため、情報処理のスピード感に欠けるところは否めませんが、異なるバックグラウンドを持つメンバーが意見を出し合うことで、多角的な視点を持って分析ができる利点もあります。

本学におけるIRの活動は、2011年頃、学生のロールモデルを模索する職員の自発的な「IR勉強会」から始まりました。その後2014年には「IR勉強会」がスタッフディベロップメントを兼ねた学内プロジェクト「IR情報戦略プロジェクト」となり、現在のIR推進室の発足につながっています。

昨年度より大学IRコンソーシアム(以下「コンソーシアム」)に加盟し、コンソーシアム共通の学生アンケートを実施・活用することで、コンソーシアム加盟大学の平均と学生の行動特性を比較することができるようになりました。本報告書に大学執行部に報告をおこなった分析結果の一部を掲載いたしましたので、ご一読いただければ幸いです。

大学の内部質保証、可視化が求められる中、学内のさまざまな部署・人々と連携し、共通資産であるデータを正しく収集・分析することはますます重要になっていきます。IR推進室は小さな組織ではありますが、その活動を通して大学の発展に寄与する原動力になりたいと考えています。

年次報告書について

室長 玉造 美恵

IR推進室は、この1年間のIR活動を記録すると共に、収集・分析した結果を共有することを目的に、年次報告書を発行いたします。

IR(Institutional Research)は、大学内のさまざまなデータを可視化して学生数と教育の質のバランスを図り、大学経営を安定させるために米国で生まれたものです。日本ではまだ馴染みの少ないIRですが、この報告書が今後の教育活動や学生支援の一助になれば幸いです。

Institutional Researchとは

准教授 石井雅章

IR(Institutional Research)とは、「客観的なデータ分析に基づいた大学における諸活動の効果検証及び、情報提供等を通じた大学の意思決定又は業務の継続的改善を支援すること」(山形大学次世代形成・評価開発機構IR部門Webサイトより)です。わかりやすく言えば、大学のなかでおこなわれている様々な活動を客観的データに基づいて分析し、データと分析結果を共有することで大学組織における判断や業務の改善につなげていく活動となります。

大学のなかには多種多様なデータが存在しています。それらは通常、担当部門や各教職員が保有していて、大学組織全体として活用される機会は必ずしも多くありません。しかし、入試形態と外国語運用能力の変容、在学中の学習行動と卒業後の進路など、データを組み合わせて分析することで新たな発見があるかもしれません。このように学内にあるデータを組み合わせることで、組織としての意思決定や日常業務の見直しにつなげることがIRの役割といえます。

IR部門の業務範囲は、学内に散在しているデータを収集し、整理・統合し、可視化及び分析をおこなうことです。収集したデータや分析結果を用いて意思決定や業務改善をおこなうことは各部門の役割となります。IRは大学でおこなわれている教育活動、学習支援、業務遂行をデータを用いて支える「縁の下の力持ち」のような立場といえるでしょう。

最近の大学IR事情

准教授 石井雅章

日本の大学におけるIRの取組は、近年急速に拡大しています。平成24-25年度文部科学省先導的・大学改革推進委託事業「大学におけるIR(インスティテューショナル・リサーチ)の現状と在り方に関する調査研究」では、IR部署を設置している大学は25%(有効サンプル547校中)で、しかも、「IR名称の組織がある」と回答した大学はわずか9.9%に過ぎませんでした。

しかし、ここ数年では本学と同様に多くの大学がIR関連の部署を設置しています。その背景には、平成30年度より始まる認証評価の第3サイクルで求められている「内部質保証システム」の実質的な運用を担保するためにIRが不可欠であることや、文部科学省による大学教育再生加速プログラム(AP)事業や私立大学等改革総合支援事業等の補助金の採択にあたって、IR部門の設置が点数化されていることが挙げられます。

本学IR推進室のメンバーもできるだけIR関係のセミナーやシンポジウムに足を運ぶようにして、他大学の動向や参考になりそうな取組に関する情報を獲得するように心がけています。

しかし、何よりも重要なことは、文部科学省や他大学の動向によってIR活動を進めるのではなく、本学の教育活動、学習支援、運営業務等にとって意義のあるデータ活用のあり方を明確にすることです。形式的にIRを導入することは意味のないことですが、学内にある様々なデータを収集し、活用することで、本学の教育活動や学習支援をより優れたものにしていくことができると考えています。

IR推進室主な活動記録(2017年度)

4月	10月 ● 学生アンケート 2016/2017 分析結果 学長報告
5月 ● AIR (Association for Institutional Research) Forum 2017 参加	11月 ● 学生アンケート 2017 回答者プレゼント 抽選会実施
6月 ● 大学 IR コンソーシアム第5回定時総 会出席 ● 大学 IR コンソーシアム IRIS システム 2016 年度「共通調査データ」「大学基 本情報データ」登録	12月 ● 大学 IR コンソーシアム主催シンポジ ウム参加(上智大学)
7月 ● Tableau ハンズオンセミナー参加(富 士通)	1月 ● 学生アンケート 2016/2017 分析結果 理事長報告
8月 ● 大学情報・機関調査研究会 (MJIR) 参 加・発表	2月 ● 大学 IR コンソーシアム IRIS システム 2017 年度「共通調査データ」登録
9月 ● 2017 年度学生アンケートに関する説 明会実施(教授会) ● 2016 年度学生アンケート実施(期間: 9/13~10/31)	3月 ● 「IR 推進室年次報告書 2017」発行

※週1回の定例ミーティングを実施。

今後の活動計画

課長 吉野知義

IRの主な対象は、教育・研究・大学経営と幅広く、それぞれ「教学IR」「研究IR」「財務IR」と呼ばれています。本学のIR推進室では、外国語運用能力などに代表される学生の学習行動・成果を対象とした教学IRを中心に進めていくこととしています。

そこで、今後の活動の中心となるのは、本学での教学IRの推進と2016年度から開始した大学IRコンソーシアムの共通学生アンケートです。本学の教学IR推進のために、学内にあるデータをできる限り定期的に収集し、複合的な分析ができるような状態にまとめていくことを計画しています。また、継続的な共通学生アンケートを実施することで他大学とのベンチマーク(比較)から本学の特徴や変化を俯瞰することができます。

また、このような活動をおこなうために、分析のためのスキルの習得、高等教育に関わる施策等の情報収集、他大学での実践事例の情報収集などを日常的に行うことも必要となってきます。

そして、今後はこの年次報告書をはじめとして分析結果を適切な形で提示することも進めていこうと考えています。

大学IRコンソーシアムについて

主任 相良亜希

大学IRコンソーシアム(以下、「コンソーシアム」)は、平成21年度文部科学省「大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム」(GP)に採択された「相互評価に基づく学士課程教育質保証システムの創出一国公立4大学IRネットワーク」を基盤として、同プログラムの代表校である同志社大学、連携校の北海道大学、大阪府立大学、甲南大学が中心となって、2011年度にコンソーシアム設置準備委員会を組織し、2012年9月25日に正式に発足した組織です。

現在では、全国の国公私立53大学(国立10大学、公立4大学、私立39大学)が加盟しています。

コンソーシアムでは、教学評価体制の基幹をなすIRネットワークシステムの運営を行い、情報の一元管理、個別の大学での教育効果の測定および学生調査による連携大学間での「相互評価」の機能や機会を会員校に提供しています。

共通学生アンケートについて

共通学生アンケートは、コンソーシアムが「学生調査」として設計したもので、授業経験や学習行動、知識・能力の獲得状況、英語運用能力のレベル、大学教育に対する満足度といった学生の認知的・情緒的側面を重視した調査項目で構成されています。コンソーシアムの加盟大学が共通のアンケートを継続して実施することで、学生の経年変化や成長や全体の集計結果との比較を通じて各大学の特徴(強み、弱み)を見出すことができるようになっています。なお、本学では共通アンケートに独自項目を追加し、Webによる回答で実施しています。

本学での共通学生アンケート実施状況

対象： 全学生

調査手法： Webアンケート

【2016年度】

期 間： 2016年9月15日(木)～11月8日(火)

対象者数： 3,862人

回 答 数： 396人 (回答率10.3%)

【2017年度】

期 間： 2017年9月13日(水)～10月31日(火)

対象者数： 3,949人

回 答 数： 1,260人 (回答率31.9%)

共通学生アンケートの詳細結果

以下のURLで、本学学生のアンケートの詳細と回答結果をご確認いただけます。

■ 2016年：<https://goo.gl/uXtjEh>

■ 2017年：<https://goo.gl/CWgthr>

学生アンケート2017 実施中

KUISでの学生生活をより良くするための学生アンケートを実施しています。ぜひご協力ください。

昨年の結果は、
2016年のアンケートに寄せられた声をもとに、学内施設の改善を行いました。

今年は、
回答者の中から抽選で39名の方に1,000円相当のギフト券をプレゼント

GoogleフォームでのWeb回答です。
● CampusWebトップ画面右側の「学生アンケート」から
● 右のQRコードから
※KUISメールでGoogleへのログインが必要です。

神田外語大学 学生課・教務課・IR推進室

学内にポスターを貼ってアンケート実施を周知しました。



図書館、SALC、MULC、メディアプラザ、学生食堂にステッカーを貼って回答を促進しました。

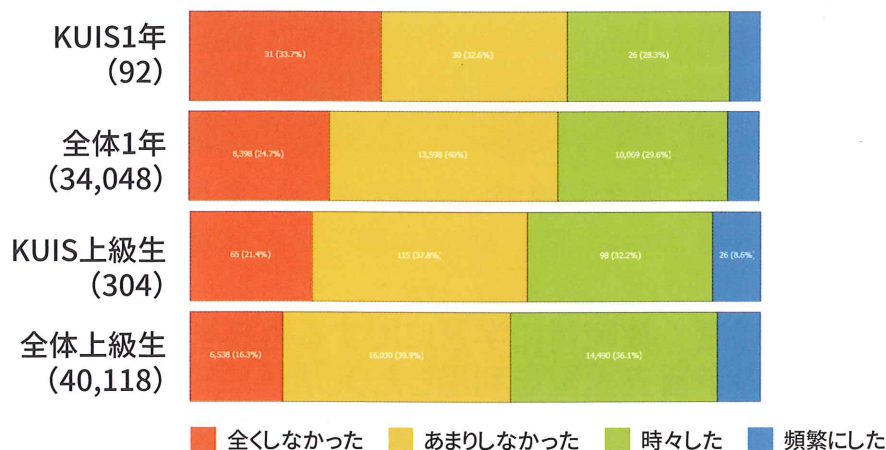
共通学生アンケートの集計結果 –他大学との比較(抜粋)–

高瀬雄一郎

2016年度に実施した共通学生アンケートをもとに、加盟大学全体との比較分析から特徴的な結果を抜粋してご紹介します。

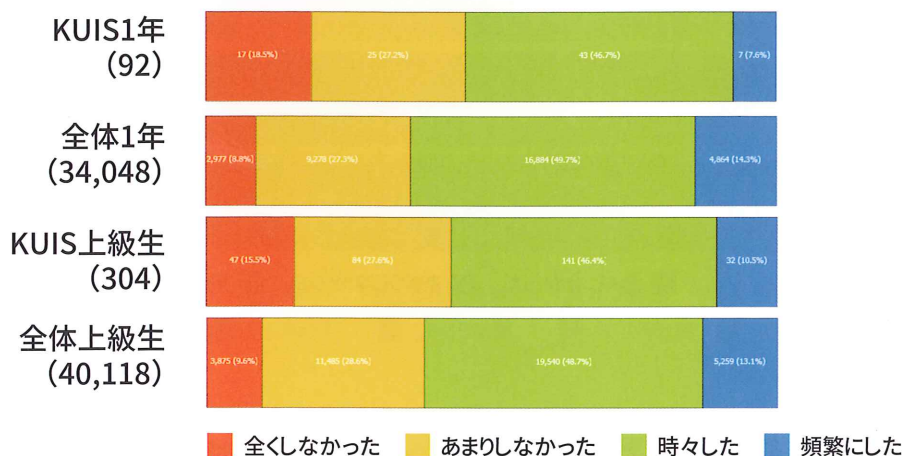
入学後の意識・態度・行動

学習態度：授業を欠席した



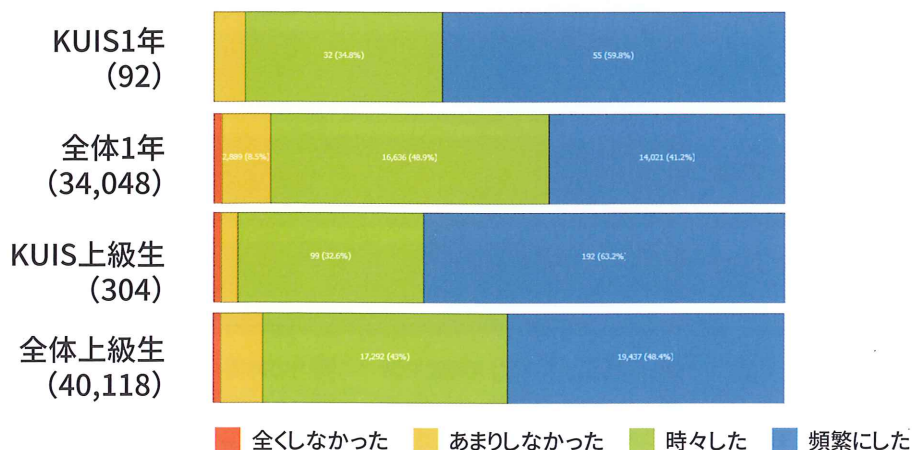
KUISの学生は全体と比較して、授業の欠席は少ないが、いずれも上級生になると欠席が増加する傾向がある。

学習態度：授業中に居眠りをした



授業中に居眠りをする学生は、1年生でも上級生でもKUISの学生は全体よりも少ない。

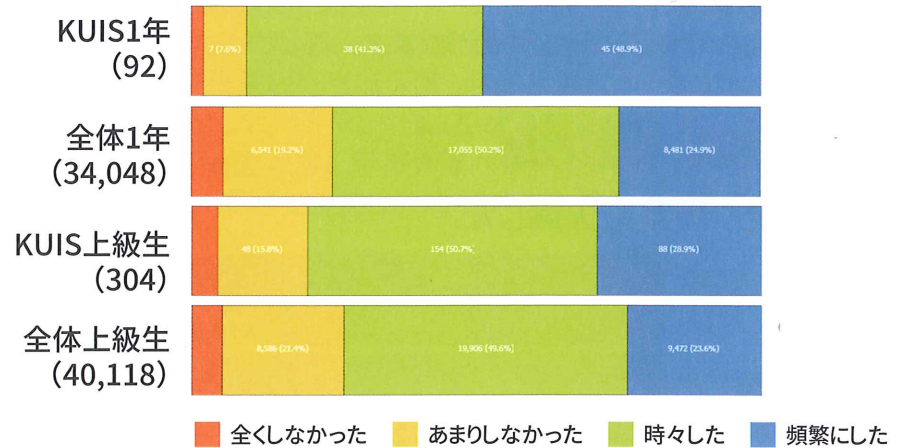
学習態度：授業課題のためにWeb上の情報を利用した



授業課題のためにWeb上の情報を利用する学生は、全体よりもKUISの学生の方がかなり多い。

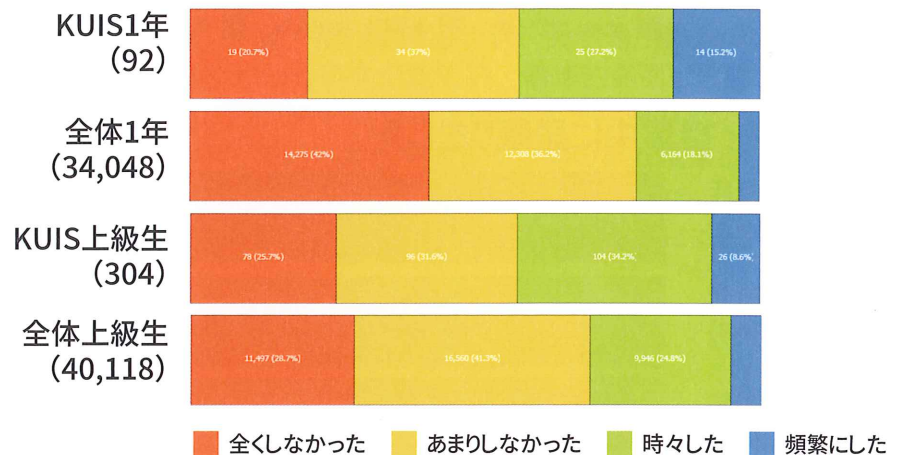
学習態度：授業時間外に、他の学生と一緒に勉強したり、授業内容を話したりした

KUISの学生は、他の学生と一緒に勉強をする割合が多いが、上級生になると全体との差は少なくなる。



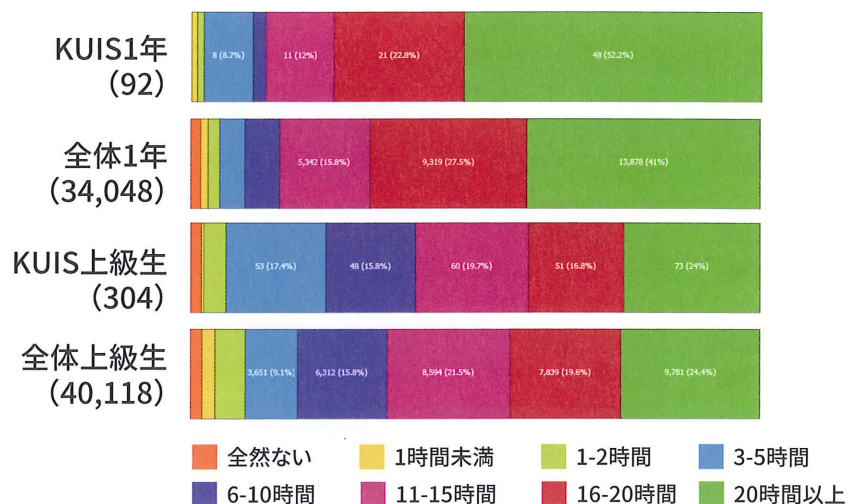
学習態度：教職員に学習に関する相談をしたり、学内の学習支援室を利用したりした

1年生では積極的な学生の割合が多いが、上級生になると全体との差は少なくなる。

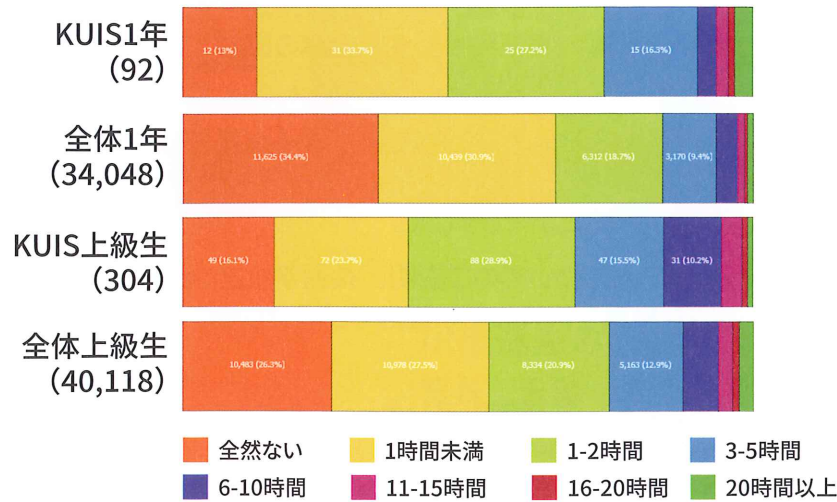


授業や実験に出ている時間／週

KUISの学生は、1年生の授業(出席)は多いが、上級生になると全体よりも少なめになる。

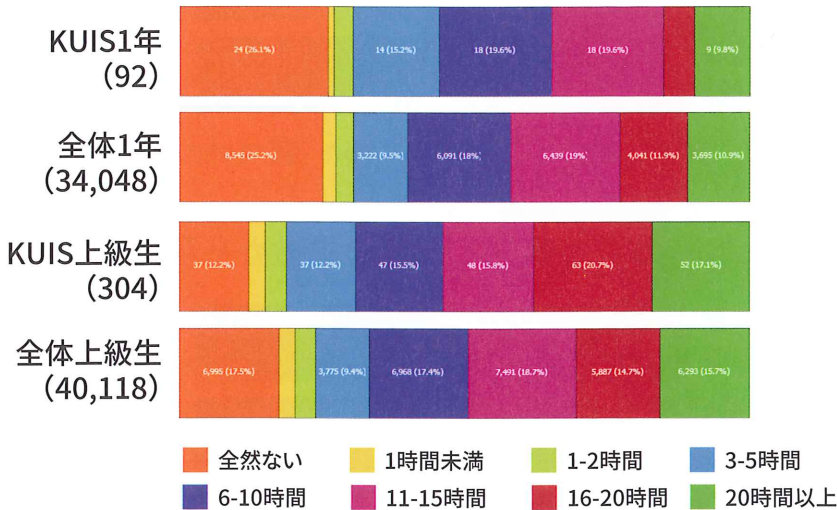


授業時間以外に、授業に関連しない勉強をする時間／週



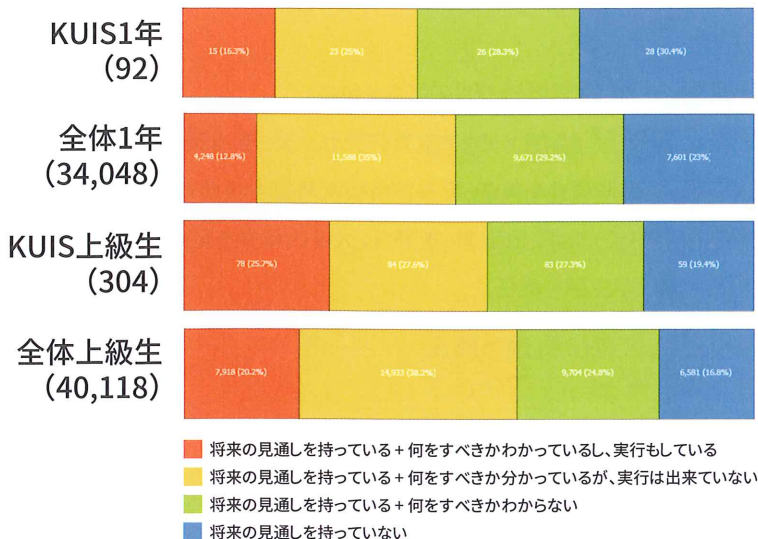
上級生になって授業が少なくなった分、授業に関連しない学習に割く時間が多くなった学生が一定数いる。

大学外でアルバイトや仕事をする時間／週



上級生になって授業が少なくなった分の時間をアルバイトに充てる学生もいる。

将来の見通し



やるべきことを実行している学生と、将来の見通しを持っていない学生、どちらも全体より多く存在している。

大学IRコンソーシアム共通学生アンケートから見える KUIS入学者の特徴

本学が加盟している大学IRコンソーシアムでの共通学生アンケート(2016年度実施)から、本学の学生の回答と加盟大学全体の回答とを比較をすることができ、本学学生の特徴が見えてきます。

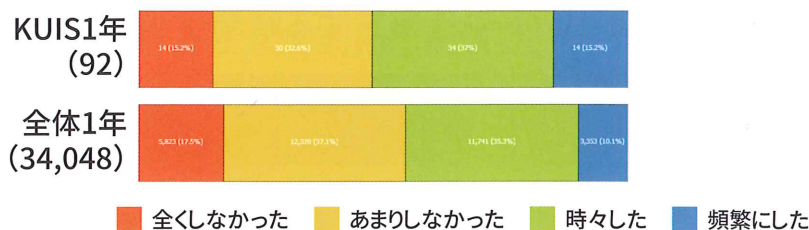
例えば、以下の「高校3年時の学習経験：授業中に質問した」、「高校3年時の学習経験：自分の失敗から学んだ」といった高校での学習経験を問う設問からは顕著な傾向を見ることができました。

大学IRコンソーシアムについてのご説明、共通学生アンケートの概要、およびその他の特徴的な結果を抜粋して本報告でご紹介しています。ぜひご覧ください。

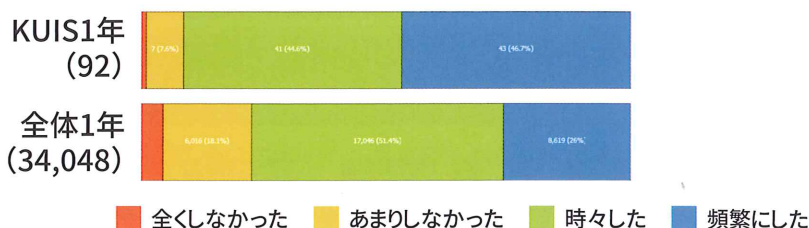
- 大学IRコンソーシアム、共通学生アンケート 4ページ
- 特徴的な結果(抜粋) 5～7ページ

高校3年時の学習経験：授業中に質問した

KUISの入学者は「まじめで積極的な学生」が多い傾向にある。



高校3年時の学習経験：自分の失敗から学んだ



IR推進室メンバー

- 室長 玉造美恵 (アドミッションセンター部長を兼任)
- 教員 石井雅章准教授 (言語メディア教育研究センター長を兼任)
- 課長 吉野知義 (図書館課長を兼任、学長室情報戦略担当課長を兼任)
- 主任 相良亜希 (アドミッションセンターを兼任、大学改革室を兼任)
- 職員 高瀬雄一郎 (学生課を兼任)